

岩日タイムズ

発行者 日本大学
 岩瀬 高等学校
 ソーシャルメディア部
 猿山 祈
 佐藤 志哉
 相野谷 叶乃

伝統の手織りに触れる

新たに出発 真岡の魅力 〜真岡木綿会館リニューアル〜

4月27日に真岡市の荒町にある真岡木綿会館がリニューアルオープンしました。平成20年に真岡木綿のアピールを目的に作られた会館は、さらに魅力を高めるために改装されました。隣接する飲食店「もめん茶屋」では、特産品のとちおとめを使ったスイーツが味わえます。来館者



リニューアルオープンのテープカット



真岡木綿の魅力を語る山田さん

約7割を占めるといいます。一つの作品を作り終えるまで一日6時間、完成するまでには大抵3ヶ月の時間がかかります。制作するものなので、注文を受けてから作る一般的な、お店のれんなどが多いそうです。担当の水沼恵美子さんから木綿を作る工程の種取り体験を教えてくださいました。昔から使われている手動の機械を使っ

行いましたが、意外に細かい作業をするので難しかったです。屋外では人数限定で本物のいちごを使ってポケットチーフを染める「いちご染め体験」が人気でした。大人から小さい子どもまで家族で参加できるため、とても楽しそうでした。この日は、私たちソーシャルメディア部の取材活動に対して、読売新聞の木口慎太郎記者が取材に来てくれました。約2時間の取材活動を私たちと共に行動し、最後に私たちへの取材をしてくれました。これまでの活動を振り返ってみると、とても楽しい経験ばかりでした。皆さんも、私たちと一緒にソーシャルメディア部として地域の良さを取材し、インタビューして楽しい思い出を作ってみませんか？

にゆっくりしてもらえよう、ウッドデッキには椅子やテーブルが設置され、クラシックモダンなつくりになりました。販売コーナーでは真岡市の魅力が伝わるような特産品や土産物ばかりでした。店員の山田千弥さんは「木綿は良い物ですが、あまり広く知られていないので小物を手にとってもいい、一から手作りされている良さを伝えていきたい」と話してくれました。真岡木綿は染色から織るまでをすべて一人で行っています。機織りよりも、そこに至るまでの工程が



綿花から種をとる工程を体験

（猿山）

（相野谷）

編集後記

今回は真岡木綿会館のオープンニングセレモニーから、真岡木綿の制作工程を取材し、私たち部員の様子を、読売新聞の木口さんに取材して頂きました。取材は何度もしてきましたが、取材されることは初めてだったので少し緊張しました。入部の動機や、活動を今後の将来にどのように生かしていきたいかなど質問に対して、自分の思いを伝えることができ、仲間の意見も聞くことができてとても良い経験になりました。4月から、新聞部と放送部が合併し「ソーシャルメディア部」となりました。私たちもリニューアルし、活動の幅を広げていきたいです。キッチンカーで販売されているイチゴミルクもとてもおいしかったので、皆さんも真岡を訪れた際にはぜひ味わってみてください。（相野谷）